

報告者プロフィール

◎ うちだ さとし
内田 聡

1967年生まれ。1990年明治大学商学部卒。1990年大和銀行入行、1999年明治大学大学院商学研究科博士後期課程修了。現在、茨城大学人文学部教授。2009年カリフォルニア大学センターサクラメント客員教授。現在の専門分野は「金融システム論」。主な著書および学術誌論文に『アメリカ金融システムの再構築～ウォールストリートとメインストリート』昭和堂, 2009、『米国金融システムの二面性～メインストリート金融の存在意義』金融経済研究, 2008、『地域密着を可能にする仕組みとは～米銀数の30%を占めるSコーポ銀の分析から』証券経済研究, 2006等がある。

◎ なかがわ りゅういち
中川 竜一

1970年生まれ。1993年岡山大学経済学部卒。1995年岡山大学大学院博士前期課程修了後、2001年京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。現在、関西大学経済学部教授。主要担当は「金融経済論」。主な著書に『総需要の利子弾力性と金融市場の不完全性』郵便貯金振興会, 2006、『信用経済における金融政策ルール』京都大学経済学会, 2005等がある。

◎ ちやの つとむ
茶野 努

1964年生まれ。1987年大阪大学経済学部卒。1987年住友生命入社、1999年大阪大学大学院国際公共政策科博士課程修了。現在、武蔵大学経済学部教授。現在の専門分野は「金融論、リスクマネジメント論」。主な著書に『なぜ金融リスク管理はうまくいかないのか』東洋経済新報社, 2009、『統合リスク管理入門－ERMの基礎から実戦まで(監訳)』ダイヤモンド社, 2008、『予定利率引下げ問題と生保業の将来』東洋経済新報社, 2002、『国際競争時代の日本の生命保険業』東洋経済新報社, 1997等がある。

第3回 研究助成論文報告会

(平成20年度 研究分)

日時 平成22年2月9日(火) 16時 開会

会場 メルパルク東京 5階「瑞雲の間」

財団法人 ゆうちよ財団

報 告 概 要

第 3 回 研究助成論文報告会

◆報告会 (瑞雲の間 5階 16時00分～18時00分)

16:00	開会の挨拶 財団法人 ゆうちよ財団 専務理事 江 寄 正 邦
16:15～16:45	内田 聡 茨城大学人文学部教授 「証券化市場の拡大とメインストリート金融」
16:45～17:15	中川 竜一 関西大学経済学部教授 「地方銀行の横並び行動に関する実証分析」
17:15～17:45	茶野 努 武蔵大学院経済学部教授 「金融コングロマリットのリスク管理と資本規制」
	終 了

◆意見交換会 (牡丹の間 3階 18時10分 ～)

◎ うちだ さとし 内田 聡 「証券化市場の拡大とメインストリート金融」

アメリカ金融システムを、マネーセンターを拠点に国内外の資金が取引されるウォールストリート金融と、地域を拠点に地域の資金が取引されるメインストリート（地域）金融との、相互補完から形成されるものと捉え分析する。

アメリカの金融システムには、市場論理と非市場論理という二面性があり、ウォールストリート金融が主に市場論理で機能する一方で、メインストリート金融は市場論理とコミュニティの要請を調和させる役割を果している。2つのサブシステムの相互補完から、金融システム全体が成立・機能しているのである。ウォールストリート金融の変貌に対応した規制・監督システムの再構築は不可避だが、同時に2つのサブシステムからなる金融システムの構造の理解が、アメリカ金融システムを真の姿を理解するうえで重要である。

◎ なかがわ りゅういち 中川 竜一 「地方銀行の横並び行動に関する実証分析」

1975～1999年の地方銀行、第二地方銀行の貸出データを用いて、地域金融機関の貸出行動に横並び行動 (herd behavior) が見られたかどうかを実証的に検証した。その結果、どちらの業態においても統計的に有意な横並び行動が観察された。ただし、横並びの性格は業態ごとに違った。1980年代以降、地銀の横並び行動は一貫して強いものであった。他方、第二地銀の横並び行動は、1980年代末までは地銀のそれを超えるほどのものであったが、1990年代にはほとんど見られなくなった。

◎ ちやの つとむ 茶野 努 「金融コングロマリットのリスク管理と資本規制」

近年、金融コングロマリット化がグローバルな規模で急速に進展した。本論の目的は、銀行と生保におけるリスク・プロファイルの違い（銀行が短期調達・長期運用、生保は長期調達・短期運用）に着目して、銀行と生保の統合効果について検討を加えることにある。世界でも極めて規模の大きな、銀行・生保兼営の金融コングロマリットである日本郵政グループの銀行勘定における金利リスクは、2000億円を超える莫大なリスク量になるが、これはかんぽ生命との間でナチュラル・ヘッジされているので、サイロ・アプローチによる資本規制は同グループに対する過剰規制となるだろう。